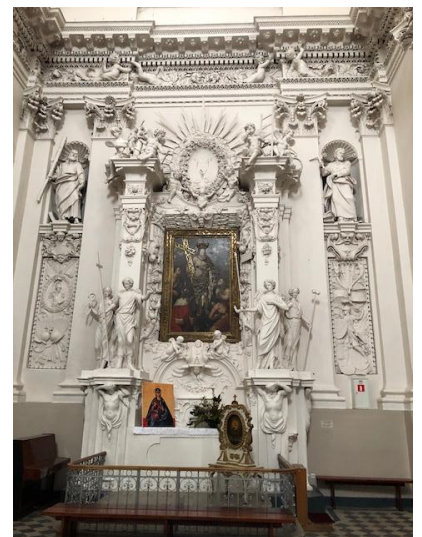




## 中世の雰囲気漂うバルト三国とフィンランドの旅

今回は、バルト海に面した共和国、エストニア、ラトビア、リトアニアそして、ムーミンの里フィンランドの旅です。森と湖の多い自然豊かなバルト三国は、氷と雪の世界が眼下に広がり、機内ではありますが、吸い込まれそうです。最北に位置する国々は、春遠く、訪れた3月は最低気温マイナス16度でした。成田発ヘルシンキ乗り継ぎ、リトアニア共和国首都ヴィリニウス国際空港へは12時間10分の空の旅です。時差マイナス7時間。驚いたのは、国土が北海道の80パーセントの小さな国際空港ですが、入国審査はIT化されています。1人できるか不安でした。銀行のATMのように、パスポートの写真を見開き、読み取り機に置きます。○サインが表示され、カウンターが開き前に進みます。足マークに立ち、レントゲン装置のようなカメラが上半身の読み取りをします。そしてGOサインでドアが開き、入国審査官にスタンプを押してもらいます。ちょっとだけモタついて通過しました。

翌朝、世界遺産のヴィリニウス市内観光です。中世の佇まいが残る街並み。ギリシア神殿の外観の大聖堂は、王の像やフレスコ画が装飾されています。聖ペテロ、パウロ教会は、17世紀後半にバロック様式で建てられ、その後30年かけて完成した内装は圧巻です。イタリアの彫刻家を招きルネサンス様式の装飾が2000以上。聖書、神話をモチーフにした漆喰彫刻が天井、壁を覆いつくしています。街中に、教会も多くホテルの部屋から雪を被った大聖堂が見えます。市内観光の次は、トラカイ城へ向かいます。湖に浮かぶ城は、夏は避暑地として人気が高いそうです。この日は、厚い氷、雪に覆われ幻想的です。観光客が、湖に降りて記念撮影をしています。赤レンガの三角帽子の可愛いお城。ロシア軍に破壊されたのですが、再建した城内は、異なる民族によって作られた街並み、歴史、当時の生活様式が保存、展示されています。トルコ文化が強い？かなあと感じました。



翌日、トラカイから100キロ、第2都市カナウスに行きました。日本のシンドラ-杉原千畝氏ゆかりの旧日本領事館に入館です。入り口入ると、日本地図に訪問者の出身地に日の丸のピンが付けられていました。ナント中津市から、すでに訪れており、第1号になれず残念でした。まず、当時のドキュメンタリーを視聴し、5つの歴史展示室で、生存家族に長期間保存された資料、写真、パスポート、杉原氏の任務状況、日本政府への電報など緊迫感が伝わります。「命のビザ」はリトアニア共和国の人々に、日本人に対する深い敬意に繋がっていると説明を受けました。感動したのは、当時、杉原氏、家族が無事に帰国の途につくまで、彼らは危険と知りながら杉原氏を見守り、寄り添っていたということ

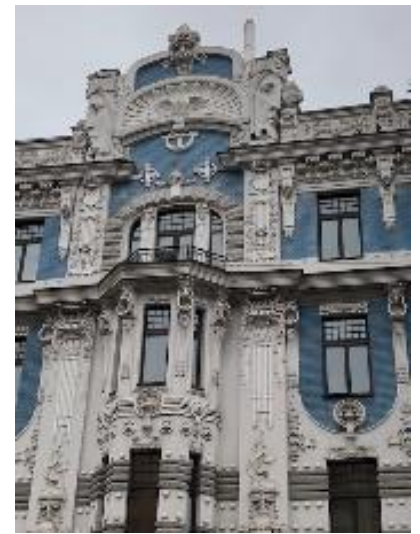




す。杉原氏の勇気ある行動は、6000人の尊い命を助けました。杉原氏の言葉で、「喜ばしいことは、自分の中に、その助けを与える決定をする力を見出したことである。」と紹介され、大戦中、苦悩の末に、とった人としての行動に心打たれました。そして暖かい気持ちで、シャウレイの十字架の丘に行きました。何百万個の十字架が丘を埋めつくし、願いが叶うと、訪れる人が後をたたないそうです。その歴史は1830年に遡り、ロシア人に対する反乱で亡くなった犠牲者に祈りを捧げたことが発端で、ロシア政府が焼き払っても、翌日には十字架が建てられていたそうです。真っ白な丘は、別世界にいる錯覚に陥りました。ちょっと、ここで、リトアニア郷土料理を紹介します。「コルドゥーナイ」水餃子みたいで、ひき肉を詰めた餃子にサワークリームをかけた料理です。「ツェペリナイ」じゃがいもの団子に豚肉、チーズを詰め、茹でてクリームソースをかけた物で、飛行船の形から名前がついた料理です。どちらも、薄味です。私は、ツェペリナイがニョッキみたいに柔らかくて美味しく頂きました。

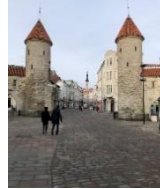


4日目は、ラトビア共和国観光です。リガ歴史地区では、ユーゲントシュティール建築群を徒歩で観ました。アール・ヌーヴォーの建物に人面や動植物をモチーフにした優美な曲線と装飾は見事です。ギルドの名残りでラトビア商人が建てた「猫の家」はユニーク。屋根の上の猫は、腹いせに大ギルド会館に尻尾を向けたとか。この他にも、「ブラックヘッドのギルド」、「三人兄弟」、「三人姉妹」の建物はリガの社会背景を物語っています。ここで注視したのが、ラトビア美人です。人口比率で男性が少なく、もともと結婚出来ない美人と言われ、街中でも、息を呑むような美人を見かけました。スタイル抜群で、ジョギング姿を見かけました。美人維持には努力が必要だと納得です。ちなみに、ジョギングを日課にしている私においては、健康維持です。なにやら、美人がピンクの衣装を纏い、パレードするブロンズ祭りがあるそうです。美人好きの方は、いかがでしょうか？笑) 余談ですが、加藤登紀子氏の「百万本の薔薇」はラトビア民謡を編曲したそうです。



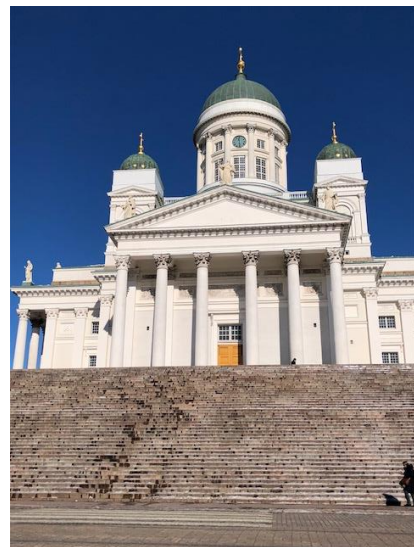
5日目は、エストニア共和国タルトゥです。タルトゥはバルト全体で2番目に古い街です。旧市街地には、ゴシック様式の庁舎に、石造りの建物や街並で、ユネスコ無形文化遺産の「歌や踊りの祭典」が初めて開催され、「文化のゆりかご」と言われた街です。タルトゥ大学では、スカイプを生み出したIT先進国エストニアの優秀な学生が集まっていると。現地ガイドが、大学で教鞭を執っているとのことで、学内の見学もさせて頂きました。この後のフリータイムで、ラエコヤ広場にある有名ショコラ店でお買い物しました。午後は、タリンで「デンマーク人の城」が名前の由来、石だたみの旧市街地は当時を忍ばせる雰囲気のある街です。ヴィル門をくぐり、アレクサンドル・ネフスキー大聖堂の石畳を昇ったトームペア展望台か





らの眺めは最高です。赤レンガの屋根、トームペア城、太っちょのマルガリータと国を守った塔が可愛いです！迷路を歩きインスタ映えする景色があちらこちらにあります。気がつくと、風が強い中、14000歩は疲れました。この後は、フリータイムでしたが、ショッピングモールで夕食にお寿司を買って早めにホテルに帰りました。明日は、いよいよ最終観光地フィンランドへ船旅。

7日目、タリンからヘルシンキ港までの所要時間は2時間。免税店、レストラン、バー、バーガーショップ、ゲームセンターがある船内は、渋谷センター街みたいです。大型船は、氷をガリガリ粉碎しながら、速いスピードで進んでいます。甲板に出てみると、超寒いので、写真を撮りすぐ船内に戻りました。景色はどこまでも真っ白な流水で山などは見えません。(森と湖の国で、山は無いそうです) ヘルシンキに到着し、ヨーロッパの美しい村30選のポルヴォーに直行しましたが、雨降り、寒くて観光には厳しく、ショコラ店で自分用のチョコを買い、バスの中でボリボリ食べました。超美味しい。私はバターコテコテのショコラより甘さ控え目のバルトで食べた生チョコが好きです。ホテルに戻り、夕食です。鴨肉のグリルに合わせ頂いた赤ワインはバルトの約3倍支払いました。フィンランドの物価の高さを感じます。フィンランドは消費税が23%と高く、食品については12%で免税対象外になり、お土産を買うのも躊躇します。日本の方が安いですよ。



8日目、ムーミン谷があるタンペレへ178キロの3時間バス移動です。ムーミン谷ミュージアムは、タンペレホールの中にありました。館内は、トーベヤンソンの物語に、約300の原画、30点の立体模型があり、ムーミン一家の愛、温もり、友情、冒険心、ユーモアの世界観が伝わってきます。日本語のガイド、解説本、オーディエンスがありますので、より理解が深まります。この日は、ナータリン・スパリゾートホテル5つ星に宿泊です。この日のために、水着も新調しました。チェックインし、水着に着替えスパに行くと、外につながるプールはマイナス気温に雪が無い、室内のジャグジースパに入りました。水温38度の小さなプールには外国人が多く、私も長く浸かっていました。お陰で旅の疲れはとれましたあ！



翌日は、ヘルシンキに戻り、市内観光後、帰国です。市内は、帝政ロシア時代の建物とスウェーデン領統治の建物が混在します。中でも、岩に包まれた「ロックチャーチ」テンペリアウキオ教会は、自然の岩の融合が見事で、運良くパイプオルガンの演奏を聴くことができ、岩の中で音色が心地よく反響していました。フリータイムでは、オールドマーケット、ヘルシンキ大聖堂、中央駅、船着場を1人で散策。昼食は、シェフが福島県のホテルで働いていたと紹介されました。日本人に合う料理で、ビーフの煮込みでした。またまた、赤ワインを頂きました。そして、ヘルシンキ空港に向かい、厚手の服や手袋、帽子をスーツケースに詰



め、チェックインしました。保安検査でバックの薬物チェックをされたので、びっくりです。他の方も、ウォッカや化粧品の手荷物で機内持ち込み数が多くて、没収されました。なぜスーツケースに入れなかったのかなあと思いました。ヘルシンキの保安検査は、以前から厳しい印象があり、免税店で購入したものでも液体は厳しくチェックされますので、注意が必要と改めて思いました。17時05分発、成田着9時定刻に到着しました。

今回、バルトのショコラは穴場と聞き、一番楽しみにしていました。チョコは薬剤師が考えたもので、見た目が可愛いくて、詰めるものも様々です。子供から大人を魅了し、それぞれのお気に入りがあります。私は、プラリネチョコでナッツやクリームを詰めた生チョコやベルギー有名店のミントステックが好きです。バルト3国の5つの街にあるショコラ店で測り売りの生ショコラを1粒ずつ購入し、食べました。外はパリパリ、中はしっとり、甘すぎずバランスの良さは抜群です。驚くほど価格も安くて美味しい！お土産も買いました。ショコラ好きの方に、バルト3国おすすめします。極寒の旅行と覚悟していましたが、真面目で笑顔のバルトの人々の優しさに触れ、美味しいチョコも堪能し、ムーミン谷も楽しんで、元気に帰国しました。また、素敵な旅の思い出に、世界の国が増えました。



渡邊郁美

